

1. これまでの流れ

第 1 回

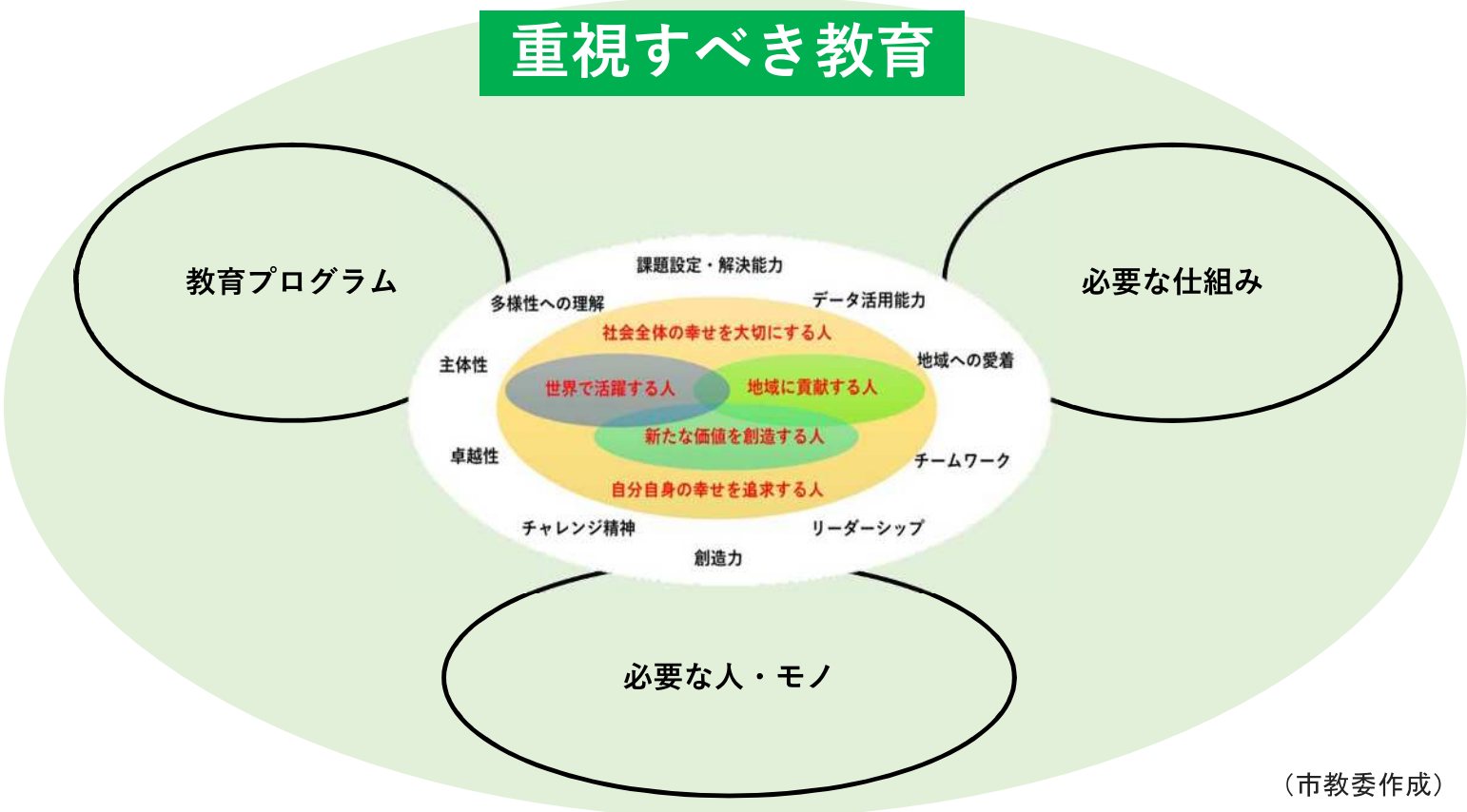
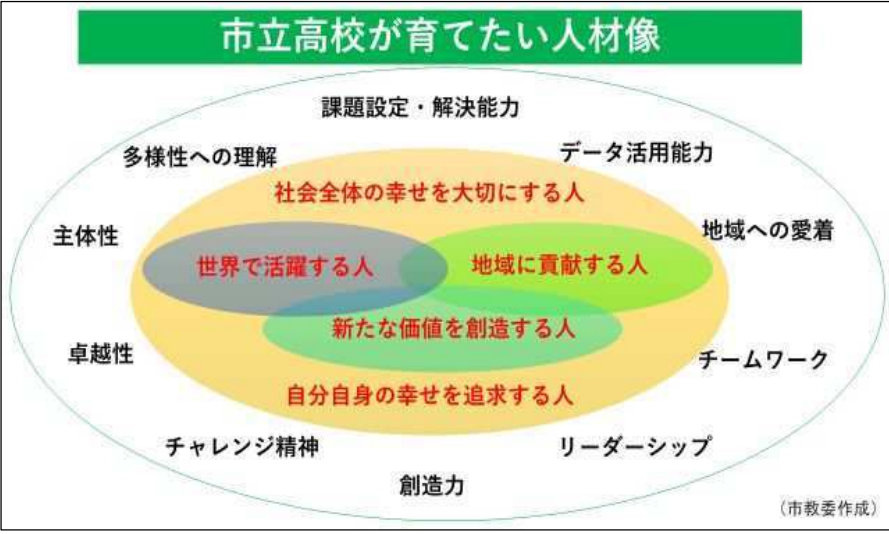
- ・市立高校（全日制）の現状
- ・高校を取り巻く状況
- ・検討の視点

第 2 回

- ・市立高校が育てたい人材像

第 3 回

- ・市立高校が育てたい人材像
- ・アンケート結果
- ・大学等・企業・地域との連携及び小中高の連携
- ・重視すべき教育

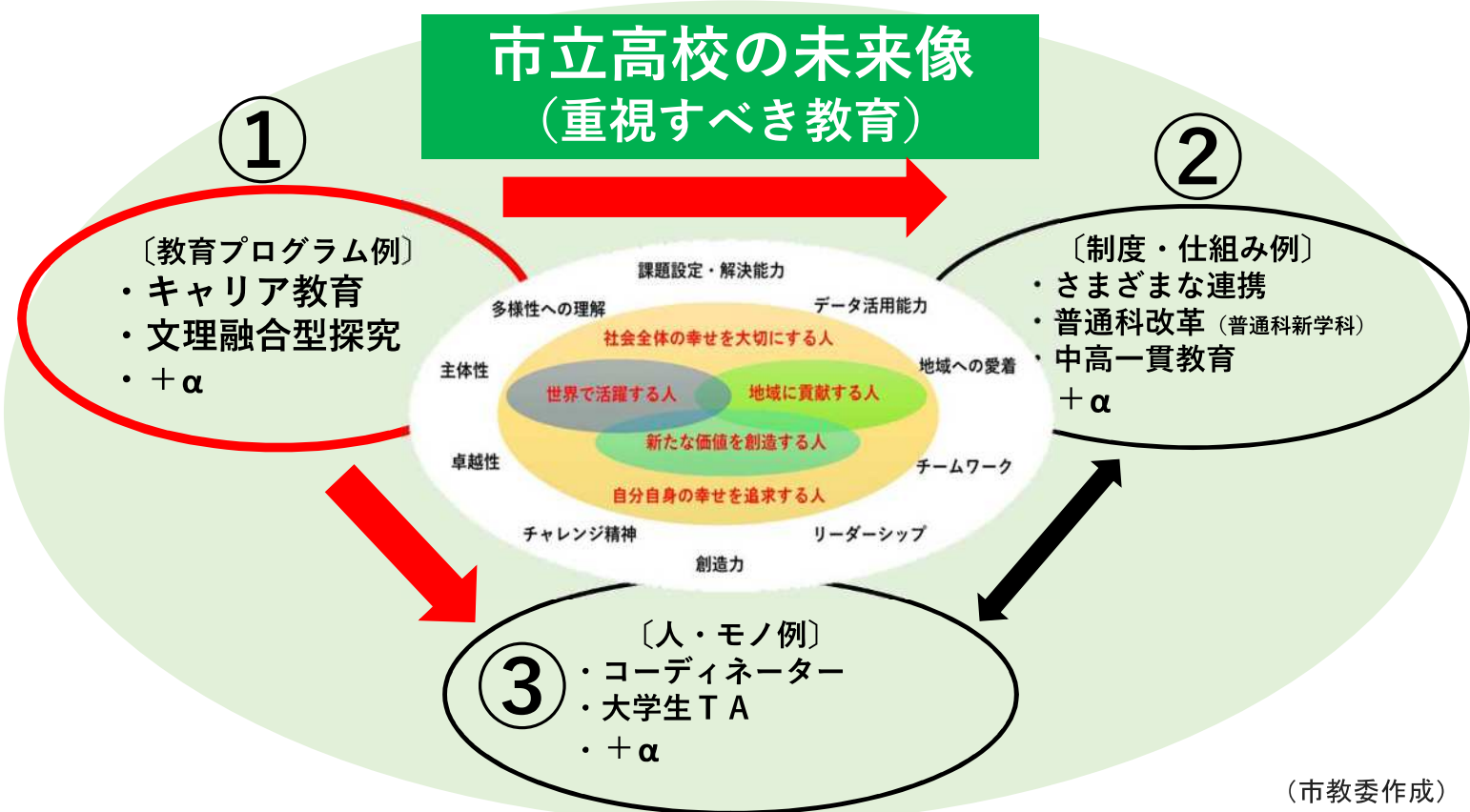


2. 本日の議題

市立高校の未来像 (重視すべき教育)

- ①教育プログラム
- ②制度・仕組み
- ③人・モノ

6



7

2-1. 教育プログラムについて

- ・ キャリア教育
- ・ 文理融合型探究
- ・ + α

8

① キャリア教育

○ キャリアとは

※下線部は事務局による

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。

(中略) このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

このキャリアは、ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、子ども・若者の発達の段階や発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくものである。また、その発達を促すには、外部からの組織的・体系的な働きかけが不可欠であり、学校教育では、社会人・職業人として自立していくために必要な基盤となる能力や態度を育成することを通じて、一人一人の発達を促していくことが必要である。

(出典：「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（中教審答申）」

初等中等教育におけるキャリア教育について

背景

中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月答申）を踏まえ、キャリア教育の理念が浸透してきている一方で、次のような課題が指摘されている。

- ・職場体験活動のみをもってキャリア教育を行ったものとしているのではないか
- ・社会への接縁を考慮せず、次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行っているのではないか
- ・職業を通じて未来の社会を作り上げていくという視点に乏しく、特定の既存組織のこれまでの在り方を前提に指導が行われているのではないか
- ・将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないか

→ 教育課程全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要

キャリア教育の充実

児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

「勤労観、職業観」のみを育てる教育ではない。

勤労観・職業観の育成に過度に焦点が絞られがちであるが、社会的・職業的自立のために必要な基盤となる能力の育成が、キャリア教育の中心となる課題。

職業教育はキャリア教育と同義ではない。

職業教育は、一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成するもの。

基本的な方向性

- 小中学校では、特別活動の学級活動を要として、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習、個別指導としてのカウンセリング等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じて実施すること。
- 特に日常の教科等の学習指導においてキャリアの視点を大事にし、将来の生活や社会と関連付けながら見通しを持ったり、振り返りしながら学ぶ「主体的・対話的で深い学び」を実現すること。
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である「基礎的・汎用的能力」を育成すること。
- キャリア教育を実践し、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結びつけることにより、児童生徒の学習意欲を喚起すること。

基礎的・汎用的能力

「人間関係形成・社会形成能力」 多様な他者を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができることと、自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画することができる力。

「自己理解・自己管理能力」 自分と社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、進んで学ぼうとする力。

「課題対応能力」 仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

「キャリアプランニング能力」 「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方について、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

学びに向かう力・人間性等

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学校における実践の具体的な方向性

- 学校における体系的・系統的なキャリア教育実践の促進
- 職場体験活動や(アカデミック)インターンシップなどの職業に関する体験活動の充実
- 学校と地域・社会や産業界等が連携・協働した取組の促進
- 児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等(キャリア・パスポート(仮称))の活用

(出典:文部科学省「キャリア教育の推進」)

10

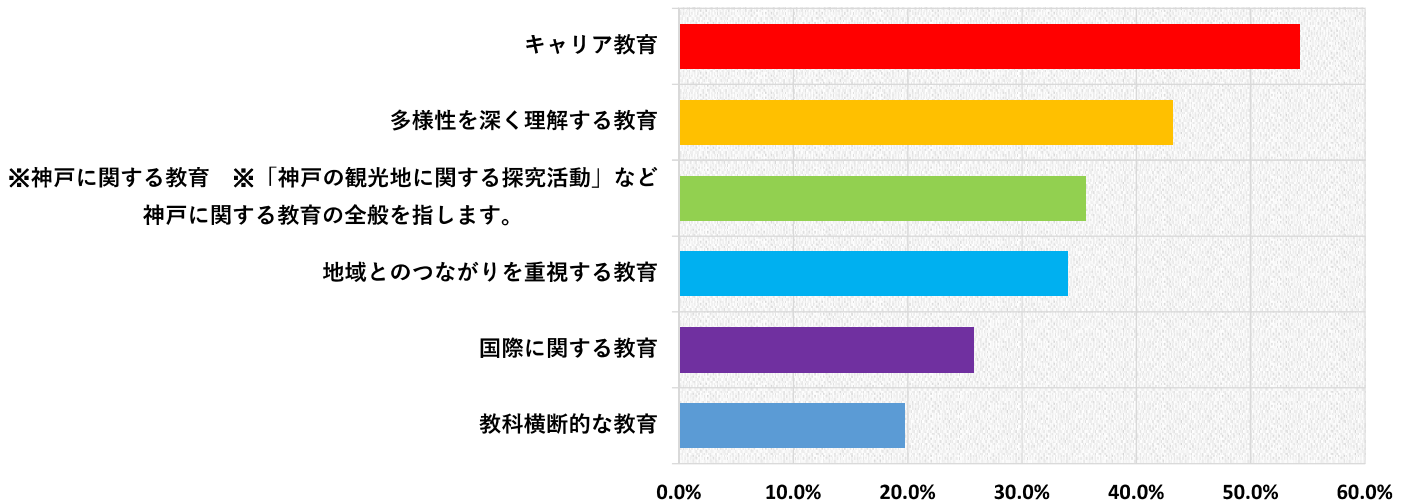
教員

(再掲) これからの神戸市立高校を考えるアンケート (5月実施) より

(回答者個人ではなく、学校としての取組に対して)

(9) 勤務校で特に力をいれているもの (3つまで)

選んだ教員の割合 (%)

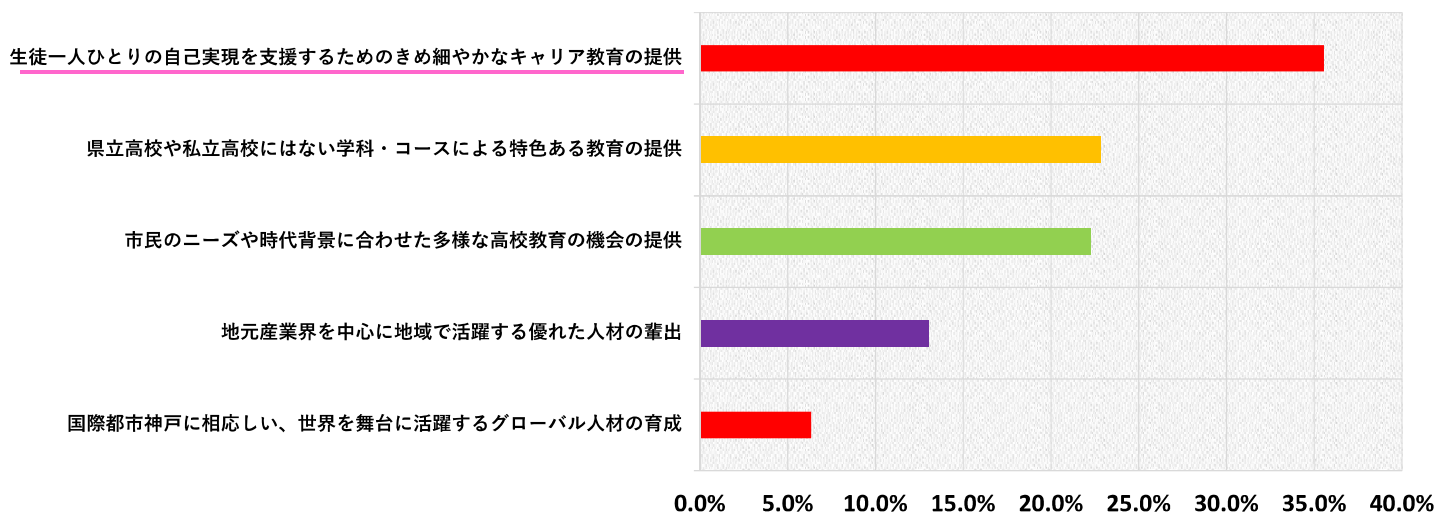


学科 (普通科・総合学科・専門学科) にかかわらず、キャリア教育に対する意識が高まっている

(再掲) これからの神戸市立高校を考えるアンケート (5月実施) より

(10) 市立高校の役割として最も求められるもの

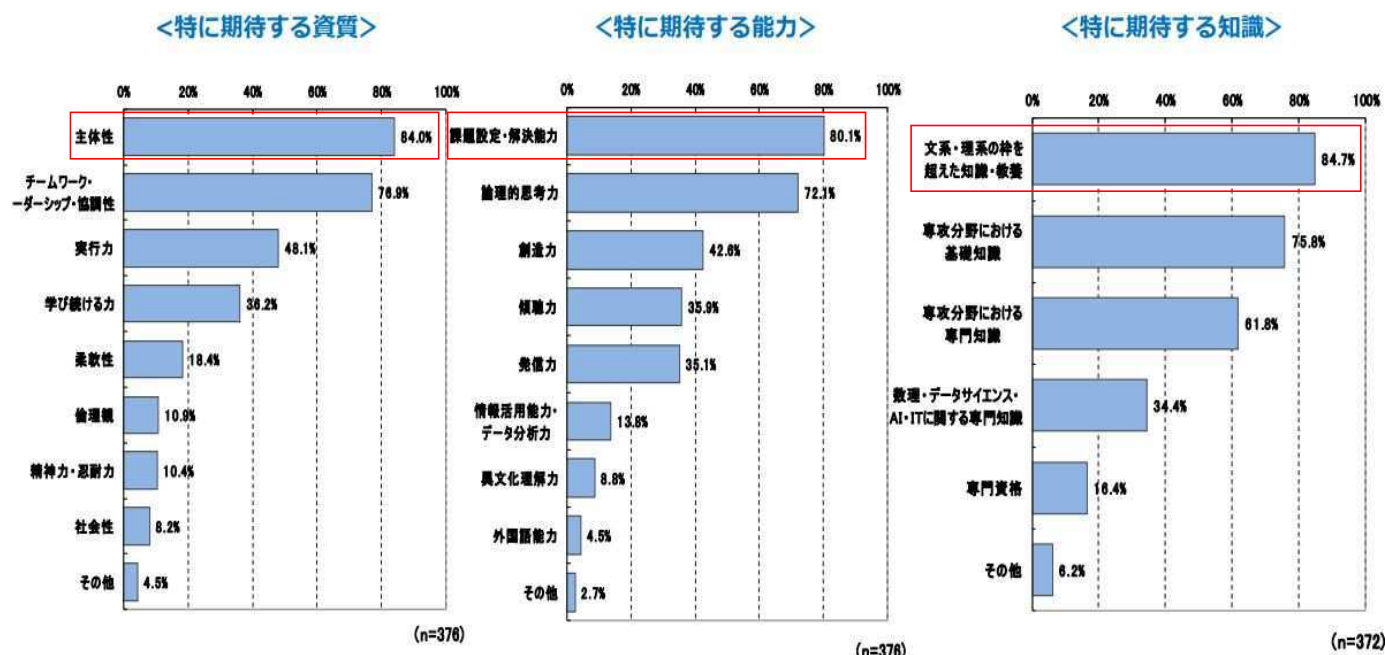
選んだ教員の割合 (%)



市立高校には、生徒や地域・市民目線に立った教育の提供をするべきだと考える教員が多い。

②文理融合型探究

○大学卒業者に特に期待する資質・能力・知識



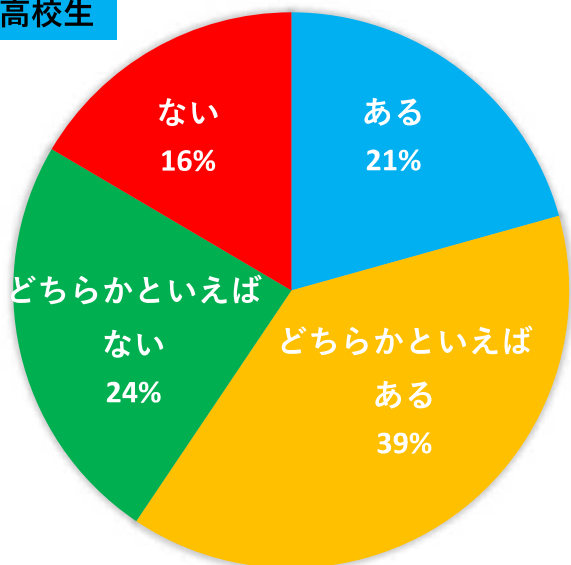
注: 資質・能力・知識についてそれぞれ3つまで選択可能

(出典)一般社団法人 日本経済団体連合会「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」(2022年1月)

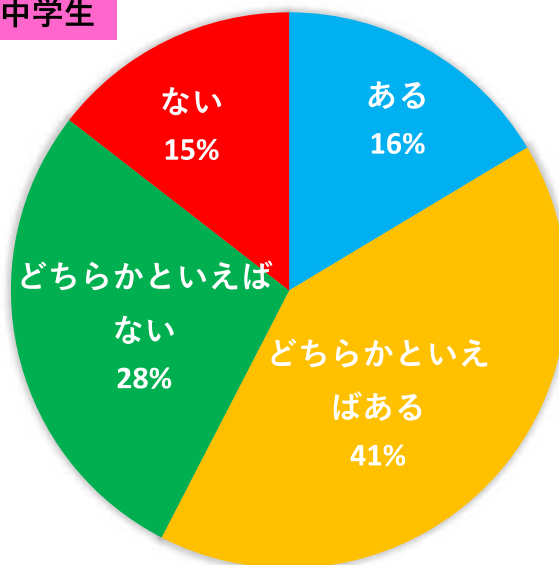
(再掲) これからの神戸市立高校を考えるアンケート (5月実施) より

探究への興味・関心

高校生



中学生



市立中高生の割合はほぼ同じ

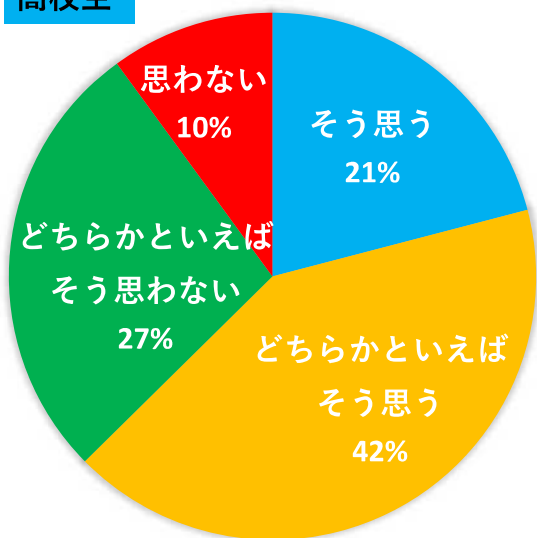
14

(再掲) これからの神戸市立高校を考えるアンケート (5月実施) より

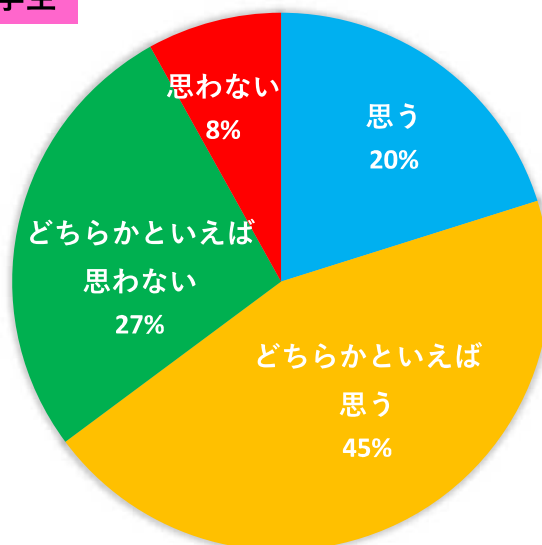
5. 理想の世の中に向けて役に立てるか

5. よりよい社会に向けて役に立てるか

高校生



中学生



市立中高生の割合はほぼ同じ

15

大学入学者選抜改革の進捗状況

改革の方向性(平成26年12月～)

- 我が国の将来を担う若者が未来を切り拓くために必要な資質・能力の育成を目指し、高等学校教育改革、大学教育改革、その間をつなぐ大学入学者選抜改革を一体的に推進
- 大学入学者選抜**は、高等学校段階までに身に付けた力を大学で発展・向上させるという一貫したプロセスを前提として、大学の入口段階で**入学者に求める力を多面的・総合的に評価・判定するものに転換**

個別大学における入学者選抜改革

①「学力の3要素※」を多面的・総合的に評価する入学者選抜への改善

※「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」

- 志願者の資質・能力を丁寧かつ確実に評価する**総合型選抜**や**学校推薦型選抜**の推進(令和2年6月～)
※学力検査や共通テストの他、小論文、資格検定試験、面接、プレゼンテーション、調査書等を適切に組合せて評価
→ **入学者の約5割**が総合型・学校推薦型で入学

- 一般選抜**でも「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を十分に評価するため、**多様な評価方法を推進**(令和2年6月～)

→ **7割以上の国立大学**が学力検査以外の資料等も評価

②多様な背景を持った者の選抜の推進

- 進学機会の確保に困難があると認められる者や理工系分野における女子等多様性を確保する観点から**対象になる者**を対象に志願者の努力のプロセス、意欲、目的意識等を重視する評価方法を推進(令和4年6月～)

→ **女子枠設定14大学(国公立)**など、**多様な背景を持った者の選抜に取り組む大学は119大学**

令和5年度入学者選抜における入試方法別入学者割合(国公私計)



※ ①及び②の入学者は5年前と比較すると約4万人増加

出典：令和6年度国公立大学入学者選抜の概要

「大学入学共通テスト」の導入

- 多数の大学入学志願者が受験する大学入試センター試験から大学入学共通テストに転換し、より**思考力・判断力・表現力等を重視**(令和3年1月から「大学入学共通テスト」実施) → **現役高校生の約半数が受験**

※ 共通テストの枠組みで実施予定だった英語成績提供システムや記述式については、公平性の観点等から有識者会議の議論を経て、個別大学の入学者選抜で推進(令和3年7月～)

- 主体的・対話的で深い学びを実現するための**新学習指導要領**対応した令和7年度入学者選抜の実施に向け、大学入試センター・各大学は、**総力を挙げて準備中**
- 総合的な英語力や思考力・判断力・表現力等の評価や多様な背景を持った学生の受入れなど、他大学の模範となる**好事例を選定・公表**(令和5年5月)するとともに優れた取組を推進するために**基盤的経費によるインセンティブ付与**

(出典：文部科学省「大学入学選抜に関する最新動向」)

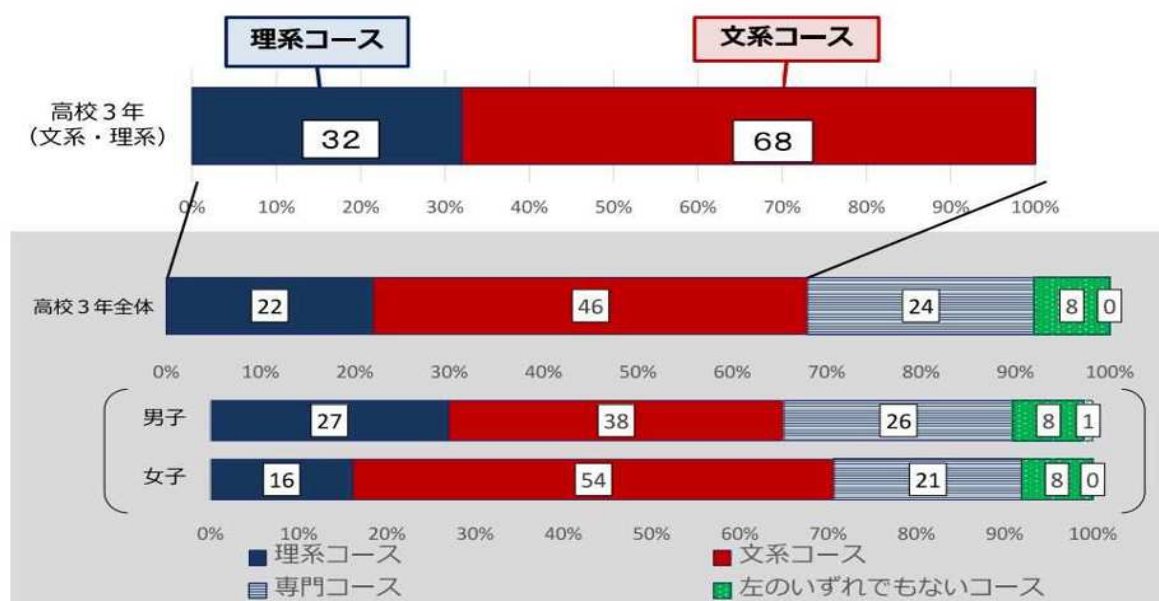
大学入学者選抜における入試方法別入学者割合 (国公立計・令和5年度卒業生)

学校名	総合型選抜	学校推薦型選抜	一般選抜
六甲アイランド	13%	45%	42%
葺合	7%	33%	60%
須磨翔風	26%	48%	26%
科学技術	26%	70%	4%
神港橘	25%	74%	1%

※数値は各校への聞き取りによる

高等学校生の文系・理系の選択状況について

- 高校の3校に2校（66%）では、文系・理系のコース分けを実施している。
- 高校3年（文系・理系）のうち、理系コースで履修する生徒の割合は32%、文系コースで履修する生徒の割合は68%である。



(出典) 国立教育政策研究所「中学校・高等学校における理系選択に関する研究最終報告書」(2013年3月)

普通科における理系の選択状況

学校名 (系)	年度	六甲アイランド高校 (総合科学系/情報科学系)		葺合高校 (理系)	
		令和元年度	令和6年度	令和元年度	令和6年度
在籍人数	3年	389名	340名	277名	266名
	2年	393名	353名	275名	277名
	1年		359名		270名
理系 選択者数 (割合%)	3年	97名 (24.9)	106名 (31.2)	38名 (13.7)	82名 (30.8)
	2年	109名 (27.7)	119名 (33.7)	45名 (16.4)	65名 (23.5)
	1年		79名 (22.0) (1年次は希望調査による)		98名 (36.3) (1年次は希望調査による)
うち女子 の人数 (割合%)	3年	37名 (38.1)	32名 (30.2)	16名 (42.1)	29名 (35.4)
	2年	30名 (27.5)	34名 (28.6)	15名 (33.3)	21名 (32.3)
	1年		31名 (39.2) (1年次は希望調査による)		31名 (31.6) (1年次は希望調査による)

DXハイスクールについて

高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

令和7年度要求・要望額

107億円
(新規)



(令和5年度補正予算額)

100億円

現状・課題

大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要

事業内容

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、専門的な外部人材の活用や大学等との連携などを通じてICTを活用した探究的・文理横断的・実践的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する

支援対象等

公立・私立の高等学校等
(1,250校程度)

箇所数・補助上限額 ※定額補助

- ・ 継続校 : 1,000校 × 750万円 (重点類型の場合950万円)
 - ・ 新規採択校 : 250校 × 1,000万円 (重点類型の場合1,200万円)
 - ・ 都道府県による域内横断的な取組: 47都道府県 × 1,000万円
- ※必須要件に加えて、各類型ごとの取組を重点的に実施する学校を重点類型として補助上限額を加算 (110校 (半導体重点校を含む))

採択校に求める具体の取組例 (基本類型・重点類型共通)

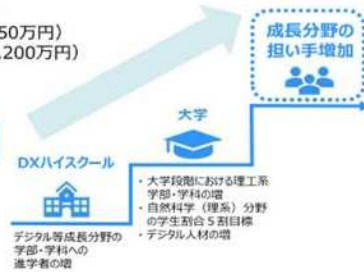
- ・ 情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進 (遠隔授業の活用を含む)
- ・ 情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置
- ・ デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施
- ・ デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進
- ・ 高大接続の強化や多面的な高校入試の実施
- ・ 地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目 (数学Ⅲ等) の遠隔授業による実施
- ・ 専門高校において、デジタルを活用したスマート農業やインフラDX、医療・介護DX等に対応した高度な専門教科指導の実施、高大接続の強化

採択校に求める具体の取組例 (重点類型 (グローバル型、特色化・魅力化型、) プロフェッショナル型 (半導体重点校を含む))

- ・ 海外の連携校等への留学、外国人生徒の受入、外国語等による授業の実施、国内外の大学等と連携した取組の実施等
- ・ 文理横断的な学びに重点的に取り組む新しい普通科への学科転換、コースの設置等
- ・ 産業界等と連携した最先端の職業人材育成の取組の実施

支援対象例

ICT機器整備 (ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等)、遠隔授業用を含む通信機器整備、理数教育設備整備、専門高校の高度な実習設備整備、専門人材派遣等業務委託費 等



事業スキーム



(担当: 初等中等教育局参事官 (高等学校担当) 付)

20

DXハイスクールにおける科学技術高校・葺合高校の取組 (予定)

○情報や数学等の教育を重視するカリキュラムを実施

○高校ごとに「高度な授業」を設定し、環境整備や教員研修を実施

	科学技術高校	葺合高校
高度な授業	プログラミング技術	情報Ⅱ
取組	AIを活用した画像処理の知識技能の習得に向けたメタバース実習及びオンライン講義環境整備	「情報Ⅱ」等の新規開講に向けた高機能ICT実習環境整備

21

文理融合的な学校設定科目

	六甲アイランド高校	葺合高校
教科	理数	学際（学校設定教科）
科目	理数実践①②（学校設定科目）	学際リサーチ（学校設定科目）
単位数	各1単位	2単位
内容	<p>保健体育科「保健」の単位を減じて開講しているため、テーマには「保健」に関連したものを取り入れる。</p> <p>理科の観察・実験手法に加え、結果を分析する際に用いる数学的手法を実践を通して習得させる。</p>	<p>人権・環境・経済などの様々なテーマについて、科学的視野、社会的背景から考察し、課題に対しての解決策を考え、提案する力を身に付ける。</p>

22

論点1

「キャリア教育、文理融合型探究、+ α 」

+ α の視点も含めて、育てたい人材像を実現するための教育プログラムについて

2-2. 育てたい人材像を実現するための 必要な制度・仕組みについて

- ・ さまざまな連携
- ・ 普通科改革（新学科）
- ・ 中高一貫教育
- ・ + α

24

① さまざまな連携について

○ 市立高校が行っている連携例（参考資料参照）

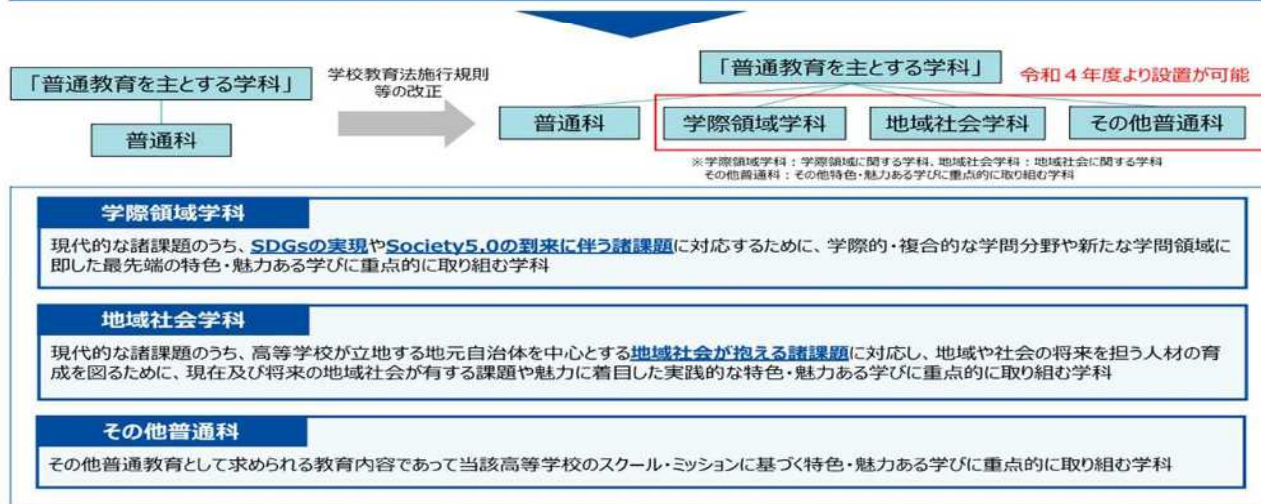
- ・ ヨコの連携（KOBE ALネットワーク事業）
- ・ タテの連携（小・中・高・高専・大の連携）
- ・ 企業等との連携
- ・ 海外との連携

25

②普通科改革について

「普通教育を主とする学科」の弾力化－普通科改革の意義・概要

- 普通科には高校生の約7割が在籍する一方で、**生徒の能力・適性や興味・関心等を踏まえた学びの実現に課題がある**との指摘もなされており、「普通」の名称から**一斉的・画一的な学びの印象を持たれやすい**ところ、普通科においても、生徒や地域の実情に応じた**特色・魅力ある教育を実現**する。
- 普通科において特色・魅力ある教育を行うにあたって、従来の文系・理系の類型分けを普遍的なものとして位置付けるのではなく、総合的な探究の時間を軸として、**生徒が社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成するための多様な分野の学びに接することができるようにする。**



出典：文部科学省「普通教育を主とする学科」の弾力化

26

新たな学科の位置づけ

○従来の普通科との違い

地域社会や我が国、世界が抱える現代的な諸課題に積極的に関わり、社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成するための領域横断的な学びに重点が置かれた学び

○「普通教育を主とする学科」の弾力化－新しい普通科の要件

- (1) **各学科の特色等に応じた学校設定教科・科目**を設け、当該学校設定教科・科目（**2単位以上**）及び総合的な探究の時間を**合計6単位以上、全ての生徒に対し、原則として各年次にわたって、履修させること**
- (2) 学校設定教科・科目と総合的な探究の時間について、**相互の関連を図り、系統的、発展的な指導を行うこと**に特に意を用いること
- (3) 学際領域学科においては、**大学等の連携協力体制を整備すること**
- (4) 地域社会学科においては、**地域の行政機関等との連携協力体制を整備すること**
- (5) 学際領域学科及び地域社会学科においては、**関係機関等との連携を行う職員の配置**その他の措置を講じるよう努めること

27

○普通科の教育課程（例）

学年	1	2	3	4	5	6	29	30	31	32	33
1	現代の国語		言語文化		歴史総合			○○	●●	総合的な探究の時間	HR
2	論理国語		地理総合		公共			△△	▲▲	総合的な探究の時間	HR
3	論理国語		数学Ⅱ		数学B			□□	■■	総合的な探究の時間	HR

○普通科新学科の教育課程（例）

学校設定科目 + 総合的な探究の時間 = 6単位以上

学年	1	2	3	4	5	6	29	30	31	32	33
1	現代の国語		言語文化		歴史総合			◎◎	○○ 探究Ⅰ	総合的な探究の時間	HR
2	論理国語		地理総合		公共			▽▽	○○ 探究Ⅱ	総合的な探究の時間	HR
3	論理国語		数学Ⅱ		数学B			○○ 探究Ⅲ	総合的な探究の時間		HR





○葺合高校の教育課程イメージ

1年	共通	1	2	3	4	5	～	29	30	31	32	33
							～				総探	HR
2年	文系 英語系 理系	1	2	3	4	5	～	29	30	31	32	33
							～		学校設定科目	学校設定科目	総探	HR
							～				総探	HR
							～				総探	HR
3年	文系 英語系 理系	1	2	3	4	5	～	29	30	31	32	33
							～				総探	HR
							～				総探	HR
							～				総探	HR

○六甲アイランド高校の教育課程イメージ

1年	共通	1	2	3	4	～	28	29	30	
						～	選/学校設定	進路ブ	HR	
2年	芸術系 総合科学系 他の系	1	2	3	4	～	28	29	30	31
						～		選/学校設定	神戸学	HR
						～		選/学校設定	神戸学	HR
						～		選/学校設定	神戸学	HR
3年	芸術系 総合科学系 他の系	1	2	3	4	～	30	29	30	31
						～	学校設定	学校設定	神戸学	HR
						～	選/学校設定	選/学校設定	神戸学	HR
						～			神戸学	HR

新しい普通科における学校設定科目

学際	福岡県立八幡高等学校 文理共創科 「知の追究」「知の探究」 計4単位・1～3学年	「知の追究」では教科等横断的な授業を通して、文系・理系の枠を超えて複数の教科・科目を融合し、学問と社会との繋がりや生きる上での学問の意義を感得させ、主体的に学問に向き合う姿勢の育成を目指す。「知の探究」では物事を多角的、複合的に捉え論理的に考察し表現することで、学問領域を統合してアプローチする際の手段となる情報活用能力や課題発見・解決に繋がる豊かな発想力を育成する。	
地域	学校法人信愛学園 浜松学芸高等学校 探究創造科 「探究創造概論」「演習」 計12単位・1～3学年	探究創造概論は、主に学校内にてプロジェクト学習およびそれに必要な基本的スキルや理論を習得するための学習を中心に構成。探究創造演習では、概論で身につけた知識・技能をもとに、主に校外を活動の中心地としてプロジェクトで設定されたテーマや生徒が自ら設定した課題の解決に向けたアイデア構築、制作、プレゼンなどの企画実行に取り組む。	
特色がある科目	和歌山県立串本古座高等学校 未来創造学科（宇宙探究コース） 「宇宙探究基礎」 2単位・1学年	民間ロケット発射場が近接しているメリットを活用し、自らの在り方・生き方としっかり向き合い、Society 5.0を生き抜くために必要な力を育成する。宇宙実験に挑戦したり、水ロケットミッションを探究的かつ、競技的な要素を取り入れつつ運動の仕組みや物理・数学に関する内容を組み込みながら学ぶ。また、身近な材料でマイ望遠鏡を作成し、天体観測と天体写真に挑戦するとともに、宇宙飛行士トレーニングを協働的に学ぶことにより、チームビルディングを体験的に学ぶ。	
	鹿児島県立種子島中央高等学校 ミライデザイン科 「DX」 7単位・1～3学年	自ら課題を発見し、解決までの過程を筋道立てて構築する力（デザイン思考）と、課題解決のための有効的な手段として、目的に応じてデジタルツールを適切に選択・活用できる力（デジタル技術）の2つの力を育成。デザイン思考では、課題発見力・コミュニケーション力育成のための活動を行い、デジタル技術ではデータサイエンスに関する基礎力の習得を行う。	

出典：文部科学省「普通教育を主とする学科」の弾力化

30

（参考）兵庫県立高校における普通科新学科への改編

改編年度	選抜方法	学級数	定員
令和6年	2月（推薦入学）	1学級／学年	40名
対象校	旧コース・学科	新学科	
御影高校	総合人間系コース	文理探究科（学際領域に関する学科）	
八鹿高校	自然科学系コース	文理探究科（学際領域に関する学科）	
柏原高校	自然科学系コース	地域科学探究科（地域社会に関する学科）	
篠山鳳鳴高校	自然科学系コース	STEAM探究科（STEAMに関する学科）	
明石高校	理数探求類型コース	STEAM探究科（STEAMに関する学科）	
豊岡高校	理数科	STEAM探究科（STEAMに関する学科）	
姫路飾西高校	自然科学系コース 国際文化系コース	STEAM探究科（STEAMに関する学科）	

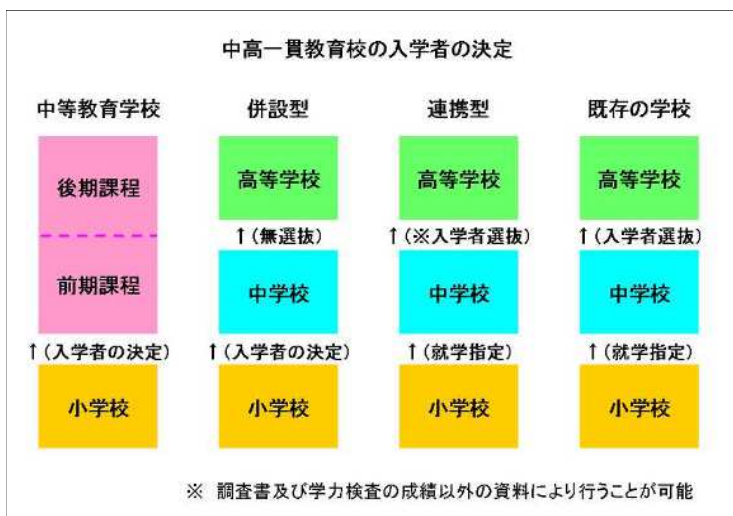
31

③中高一貫教育校について

中高一貫教育校の設置状況（公立のみ）



（出典：文部科学省「高等学校教育の改善に関する推進状況 令和4年度」）



政令指定都市における中高一貫教育校設置状況

都市名	設置	設置形態		学校名	備考
		中等教育	併設型		
1 札幌市	○	○		札幌開成	
2 仙台市	○	○		仙台青陵	
3 さいたま市	○		○	浦和	
4 千葉市	○	○		大宮国際	
5 横浜市	○		○	稲毛国際	
6 川崎市	○		○	南高校	
7 相模原市	-			横浜サイエンスフロンティア	
8 新潟市	○	○		川崎	
9 静岡市	-			高志	
10 浜松市	-				
11 名古屋市	-				愛知県がR7年度に4校の県立中高一貫校を開校予定（うち1校は名古屋市内）
12 京都市	○		○	西京	
13 大阪市	○		○	咲くやこの花	R4大阪府に移管
14 堺市	-		○	水都国際	R4大阪府に移管
15 神戸市	-				
16 岡山市	○		○	岡山後楽館	
17 広島市	○	○		広島	
18 北九州市	-				
19 福岡市	-				
20 熊本市	-				

（市教委作成）

2-3. 育てたい人材像を実現するための 必要な人・モノについて

- ・ **コーディネーター**

高校が自治体、高等教育機関、産業界等との協働によりコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取り組みを推進するために高校と地域を繋ぐ役割を担う人材

- ・ **大学生ティーチングアシスタント**

大学生又は大学院生による「探究」の支援員

- ・ **+ α**

34

論点 2

論点 1 で協議された教育プログラムを実施するための必要な制度や仕組みは？

- ・ さまざまな連携
- ・ 普通科改革（新たな普通教育を主とする学科）
- ・ 中高一貫教育
- ・ + α

また、必要な人・モノは？

- ・ コーディネーター
- ・ 大学生ティーチングアシスタント
- ・ + α

35

第5回有識者会議について

日時：12月中旬（予定）

議題：市立高校の未来像 論点整理

